



2023年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年10月31日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 東
 コード番号 4528 URL <https://www.ono-pharma.com/ja>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 相良 暁
 問合せ先責任者（役職名） 常務執行役員コーポレートコミュニケーション統括部長（氏名） 谷 幸雄（TEL）（06）6263-5670
 四半期報告書提出予定日 2022年11月4日 配当支払開始予定日 2022年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）
 （百万円未満四捨五入）

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	216,701	24.5	80,270	38.0	81,019	36.8	62,442	34.8	62,339	34.7	62,263	19.2
2022年3月期第2四半期	174,077	15.7	58,171	11.0	59,231	10.4	46,334	16.2	46,290	16.2	52,252	△2.9
	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益									
	円 銭		円 銭									
2023年3月期第2四半期	127.67		127.66									
2022年3月期第2四半期	92.74		92.73									

（2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	805,008	710,375	704,518	87.5
2022年3月期	739,203	661,674	655,906	88.7

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	28.00	—	28.00	56.00
2023年3月期	—	33.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	33.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	440,000	21.8	149,000	44.4	150,000	42.8	114,200	41.5	114,000	41.6	233.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	517,425,200株	2022年3月期	528,341,400株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2023年3月期2Q	29,091,133株	2022年3月期	40,096,713株
------------	-------------	----------	-------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期2Q	488,277,710株	2022年3月期2Q	499,153,142株
------------	--------------	------------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料6ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当第2四半期の経営成績の概況	2
(2) 当第2四半期の財政状態の概況	5
(3) 当第2四半期のキャッシュ・フローの概況	5
(4) 今後の見通し	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	7
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	9
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	11
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報)	13
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当第2四半期の経営成績の概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期 連結累計期間	2023年3月期 第2四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	174,077	216,701	42,624	24.5%
営業利益	58,171	80,270	22,099	38.0%
税引前四半期利益	59,231	81,019	21,788	36.8%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	46,290	62,339	16,049	34.7%

【売上収益】

売上収益は、前年同期比426億円（24.5%）増加の2,167億円となりました。

- ・抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、競合他社製品との競争が激化する一方、胃がん、食道がんなどでの使用が拡大したことなどにより、前年同期比138億円（24.6%）増加の699億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は264億円（前年同期比68.8%増）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は125億円（同11.0%増）、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は117億円（同8.0%減）、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は44億円（同6.5%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は43億円（同5.3%減）、抗悪性腫瘍剤「ベレキシブル錠」は41億円（同43.4%増）、パーキンソン病治療剤「オンジェンティス錠」は24億円となりました。
- ・長期収載品は、薬価改定の影響などにより、末梢循環障害改善剤「オパールモン錠」は23億円（前年同期比5.9%減）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は12億円（同35.3%減）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、前年同期比169億円（30.8%）増加の718億円となりました。

【営業利益】

営業利益は、前年同期比221億円（38.0%）増加の803億円となりました。

- ・売上原価は、製品商品の売上が増加したことなどにより、前年同期比81億円（17.9%）増加の537億円となりました。
- ・研究開発費は、研究に係る費用および早期臨床試験に係る開発費用の増加などにより、前年同期比71億円（21.7%）増加の396億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前年同期比53億円（14.0%）増加の429億円となりました。

【四半期利益】（親会社所有者帰属）

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比160億円（34.7%）増加の623億円となりました。

(研究開発活動)

当社グループは、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

現在、開発パイプラインには、オプジーボに加えて、抗体医薬品を含む抗がん剤の新薬候補化合物をはじめ、自己免疫疾患や神経系疾患の治療薬候補などがあり、開発を進めています。なかでも、がん治療の領域は医療ニーズが高いことから、重要な戦略分野と位置づけています。

創薬研究においては、医療ニーズの高いがんや免疫、神経、スペシャリティ領域を重点領域に定め、それぞれの領域でヒト疾患バイオロジーを掘り下げ、医療ニーズを満たし得る新薬の創製を目指して、創薬力の強化に努めています。そのために、当社が得意とするオープンイノベーションを積極的に推進することで、独創的な創薬シーズを見出し、インフォマティクスやヒト疾患モデル作製、新薬候補化合物作製など、様々な社内外の最新技術を利用して、医療インパクトのある画期的新薬の創製を目指します。

重点領域において8つの新薬候補化合物が臨床ステージに移行しており、今後さらに創薬のスピードと成功確率を向上させるために、基礎と臨床の橋渡しを担うトランスレーショナル研究も強化しています。研究早期段階からヒトゲノム情報やヒトiPS細胞などの研究ツールとインフォマティクスを有機的に活用することで、標的分子の疾患との関連性を解析し、新薬候補化合物のヒトにおける有効性をより正確に予測・評価できる生理学的指標（バイオマーカー）を見出せるよう努めています。

開発のスピードと成功確率を向上させるために、蓄積した臨床試験データを用いて、有効性、安全性の予測精度を向上させる取り組みを行っています。また、新薬候補化合物の価値を最大化するために、研究段階から研究本部と連携して早期に開発戦略の立案に着手し、複数の疾患を対象に早期臨床試験を実施することを目指しています。欧米の臨床開発の機能の充実を図ることで、今後は、日本、米国、欧州で柔軟に早期臨床試験を実施できる体制を構築していきます。

また、ライセンス活動による有望な新薬候補化合物の導入にも努め、研究開発活動の一層の強化に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の主な成果（第2四半期連結会計期間末以後のものを含む）は、以下のとおりであります。

[開発品の主な進捗状況]

<がん領域>

「オプジーボ/ニボルマブ」

非小細胞肺がん

- ・本年4月、化学療法との併用療法について、国内で「切除可能な非小細胞肺がんの術前補助療法」を効能・効果とした承認申請を行いました。

腎細胞がん

- ・本年5月、武田薬品工業株式会社のキナーゼ阻害剤「カボメティクス錠/カボザンチニブリンゴ酸塩」との併用療法について、台湾で「未治療の進行腎細胞がん」を効能・効果とした承認を取得しました。

食道がん

- ・本年5月、「ヤーボイ」との併用療法および化学療法との併用療法について、国内で「根治切除不能な進行・再発の食道がん」を効能・効果とした承認を取得しました。
- ・本年7月、「ヤーボイ」との併用療法および化学療法との併用療法について、台湾で「進行または転移性食道扁平上皮がん」を効能・効果とした承認を取得しました。

尿路上皮がん/膀胱がん

- ・本年4月、台湾で「根治切除後の再発リスクが高い筋層浸潤性尿路上皮がん患者の術後補助療法」を効能・効果とした承認を取得しました。

胆道がん

- ・本年4月、国内で「胆道がん」を対象としたフェーズⅡ試験を実施していましたが、戦略上の理由により申請を断念したため、開発パイプラインから削除しました。

膵がん

- ・本年7月、「オブジーボ」について、国内で「膵がん」を対象としたフェーズⅡ試験を実施していましたが、開発を中止しました。

ウイルス陽性・陰性固形がん

- ・本年7月、「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法について、日韓台で「ウイルス陽性・陰性固形がん」を対象としたフェーズⅠ/Ⅱ試験を実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

「ONO-7018」

- ・本年8月、MALT1阻害薬「ONO-7018」について、米国で「非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病」を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

「ONO-7911」

- ・本年4月、「オブジーボ」とPEG化IL-2「ONO-7911」との併用療法について、国内で「固形がん」を対象としたフェーズⅠ試験を実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

「ONO-7475」

- ・本年9月、Axl/Mer阻害薬「ONO-7475」について、米国で「急性白血病」を対象としたフェーズⅠ/Ⅱ試験を実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

<がん領域以外>

「オノアクト点滴静注用/ランジオロール塩酸塩」

- ・本年8月、短時間作用型 β_1 選択的遮断剤「オノアクト点滴静注用」について、国内で「小児の心機能低下例における頻脈性不整脈（上室頻拍、心房細動、心房粗動）」を効能・効果とした承認を取得しました。

「ベレキシブル錠/チラブルチニブ塩酸塩/ONO-4059」

- ・本年4月、BTK阻害剤「ベレキシブル錠」について、国内で「天疱瘡」を対象としたフェーズⅢ試験を開始しました。

「ONO-2020」

- ・本年7月、エピジェネティクス制御薬「ONO-2020」について、米国で「神経変性疾患」を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

「ONO-2909」

- ・本年10月、プロスタグランジン受容体（DP1）拮抗薬「ONO-2909」について、国内で「ナルコレプシー」を対象としたフェーズⅠ試験を実施していましたが、期待された有効性が確認できなかったため開発を中止しました。

[創薬/研究提携活動の状況]

- ・本年4月、仏国Domain Therapeutics社、カナダMontréal大学と、独自のGタンパク質共役受容体（以下、GPCR）創薬プラットフォームとGPCR創薬に対する医薬品化学および薬理学における専門知識を応用して、代謝性疾患領域において当社が選択したGPCRを標的とした新規低分子化合物の創製を目的とする創薬提携契約を締結しました。
- ・2018年9月に締結した米国Fate Therapeutics社とのiPS細胞由来のキメラ抗原受容体（CAR）-T細胞治療薬の創製を目的とする創薬提携について、本年6月、iPS細胞由来のキメラ抗原受容体（CAR）-NK細胞治療薬の創製も含めた提携に拡大する契約を締結しました。
- ・本年8月、ナレッジパレット社とナレッジパレットの大規模トランスクリプトーム解析技術を活用した、データ駆動型の新薬創出基盤の構築を目的とする共同研究を拡大する契約を締結しました。

(2) 当第2四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 連結会計年度末	2023年3月期 第2四半期 連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	739,203	805,008	65,804
親会社の所有者に帰属する持分	655,906	704,518	48,611
親会社所有者帰属持分比率	88.7%	87.5%	
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,343.40円	1,442.73円	

資産合計は、前期末に比べ658億円増加の8,050億円となりました。

流動資産は、現金及び現金同等物やその他の金融資産の増加などから579億円増加の3,392億円となりました。

非流動資産は、投資有価証券や無形資産が減少する一方で、その他の金融資産が増加したことなどから79億円増加の4,658億円となりました。

負債は、未払法人所得税の増加などから171億円増加の946億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、剰余金の配当があった一方で、四半期利益の計上などから486億円増加の7,045億円となりました。

(3) 当第2四半期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期 連結累計期間	2023年3月期 第2四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	61,045	69,112	
営業活動によるキャッシュ・フロー	40,369	80,977	40,607
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,385	△37,925	△32,540
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,968	△15,065	△97
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	20,016	27,987	
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	56	653	
現金及び現金同等物の四半期末残高	81,117	97,752	

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の増減額は、280億円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及びその他の債権の増加額117億円などがあった一方で、税引前四半期利益810億円などがあった結果、810億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入121億円などがあった一方で、定期預金の預入による支出501億円などがあった結果、379億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額137億円などがあった結果、151億円の支出となりました。

(4) 今後の見通し

2022年5月11日に公表しました2023年3月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正します。

2023年3月期通期連結業績予想数値の修正
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回公表予想(A)	425,000	145,000	146,000	110,100	110,000	225.30円
今回修正予想(B)	440,000	149,000	150,000	114,200	114,000	233.47円
増減額(B-A)	15,000	4,000	4,000	4,100	4,000	
増減率	3.5%	2.8%	2.7%	3.7%	3.6%	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	361,361	103,195	105,025	80,684	80,519	162.19円

(注) 前回公表予想において、年間の為替レートを1ドル=110円と想定しておりましたが、今回修正予想において、下期の為替レートを1ドル=130円に見直しております。

売上収益は、ロイヤルティ収入において為替レートが想定より円安で推移していることなどにより、前回公表予想に比べ150億円増加の4,400億円を予想しております。

売上原価は、前回公表予想に比べ50億円増加の1,090億円を予想しております。

研究開発費は、為替の影響などにより、前回公表予想に比べ40億円増加の910億円を予想しております。

販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、デジタル・IT投資などの増加を見込み、前回公表予想に比べ20億円増加の900億円を予想しております。

以上の結果、営業利益は前回公表予想に比べ40億円増加の1,490億円、税引前利益は40億円増加の1,500億円、当期利益は41億円増加の1,142億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は40億円増加の1,140億円を予想しております。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準(IFRS)を適用しております。

3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2022年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	69,112	97,752
売上債権及びその他の債権	99,788	111,545
有価証券	60	20
その他の金融資産	47,797	66,009
棚卸資産	41,817	43,887
その他の流動資産	22,692	19,963
流動資産合計	281,266	339,176
非流動資産		
有形固定資産	112,131	109,119
無形資産	64,734	61,614
投資有価証券	125,046	117,445
持分法で会計処理されている投資	108	112
その他の金融資産	127,302	147,209
繰延税金資産	25,074	26,813
退職給付に係る資産	377	348
その他の非流動資産	3,165	3,172
非流動資産合計	457,937	465,831
資産合計	739,203	805,008

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2022年9月30日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	49,689	46,518
リース負債	2,301	2,205
その他の金融負債	716	881
未払法人所得税	1,526	19,978
その他の流動負債	11,694	13,828
流動負債合計	65,926	83,409
非流動負債		
リース負債	6,501	6,081
その他の金融負債	0	0
退職給付に係る負債	3,322	3,429
繰延税金負債	1,009	1,005
その他の非流動負債	771	707
非流動負債合計	11,603	11,223
負債合計	77,529	94,632
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,241	17,080
自己株式	△74,683	△54,161
その他の資本の構成要素	51,236	48,841
利益剰余金	644,754	675,400
親会社の所有者に帰属する持分	655,906	704,518
非支配持分	5,768	5,858
資本合計	661,674	710,375
負債及び資本合計	739,203	805,008

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)	
	前第2四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上収益	174,077	216,701
売上原価	△45,567	△53,712
売上総利益	128,510	162,990
販売費及び一般管理費	△37,656	△42,945
研究開発費	△32,552	△39,628
その他の収益	669	457
その他の費用	△800	△602
営業利益	58,171	80,270
金融収益	1,422	1,224
金融費用	△361	△478
持分法による投資損益	△2	3
税引前四半期利益	59,231	81,019
法人所得税	△12,897	△18,577
四半期利益	46,334	62,442
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	46,290	62,339
非支配持分	43	103
四半期利益	46,334	62,442
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	92.74	127.67
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	92.73	127.66

要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第2四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期利益	46,334	62,442
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	5,524	△1,394
確定給付制度の再測定	324	△26
持分法適用会社のその他の包括利益を 通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	1	1
純損益に振り替えられることのない 項目合計	5,849	△1,418
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	70	1,206
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値 の純変動	-	32
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	70	1,239
その他の包括利益合計	5,918	△180
四半期包括利益合計	52,252	62,263
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	52,208	62,166
非支配持分	44	96
四半期包括利益合計	52,252	62,263

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分			
2021年4月1日残高	17,358	17,231	△44,705	62,299	581,950	634,133	5,610	639,743	
四半期利益					46,290	46,290	43	46,334	
その他の包括利益				5,918		5,918	0	5,918	
四半期包括利益合計	-	-	-	5,918	46,290	52,208	44	52,252	
自己株式の取得			△1			△1		△1	
自己株式の処分		△31	31			0		0	
剰余金の配当					△13,726	△13,726	△4	△13,730	
株式報酬取引		21				21		21	
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△1,742	1,742	-		-	
所有者との取引額等合計	-	△10	29	△1,742	△11,984	△13,707	△4	△13,711	
2021年9月30日残高	17,358	17,221	△44,676	66,475	616,256	672,634	5,650	678,285	

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分			
2022年4月1日残高	17,358	17,241	△74,683	51,236	644,754	655,906	5,768	661,674	
四半期利益					62,339	62,339	103	62,442	
その他の包括利益				△173		△173	△7	△180	
四半期包括利益合計	-	-	-	△173	62,339	62,166	96	62,263	
自己株式の取得			△2			△2		△2	
自己株式の消却		△20,356	20,356			-		-	
自己株式の処分		△168	168			-		-	
剰余金の配当					△13,671	△13,671	△6	△13,677	
株式報酬取引		118				118		118	
利益剰余金から資本剰余金への振替		20,245			△20,245	-		-	
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△2,223	2,223	-		-	
所有者との取引額等合計	-	△161	20,522	△2,223	△31,693	△13,555	△6	△13,562	
2022年9月30日残高	17,358	17,080	△54,161	48,841	675,400	704,518	5,858	710,375	

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	59,231	81,019
減価償却費及び償却費	8,686	8,629
減損損失	124	-
受取利息及び受取配当金	△1,177	△1,218
支払利息	35	32
棚卸資産の増減額(△は増加)	577	△2,024
売上債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△5,375	△11,671
仕入債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△6,523	45
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	115	81
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	65	18
その他	1,587	3,967
小計	57,345	78,878
利息の受取額	25	22
配当金の受取額	1,157	1,206
利息の支払額	△35	△32
法人所得税等の支払額又は還付額(△は支払)	△18,124	904
営業活動によるキャッシュ・フロー	40,369	80,977
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,045	△3,267
無形資産の取得による支出	△5,587	△2,138
投資の取得による支出	△382	△1,143
投資の売却及び償還による収入	6,407	7,062
定期預金の預入による支出	△6,847	△50,100
定期預金の払戻による収入	5,200	12,110
その他	△1,130	△450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,385	△37,925
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△13,707	△13,650
非支配持分への配当金の支払額	△4	△6
リース負債の返済による支出	△1,256	△1,407
自己株式の取得による支出	△0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,968	△15,065
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	20,016	27,987
現金及び現金同等物の期首残高	61,045	69,112
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	56	653
現金及び現金同等物の四半期末残高	81,117	97,752

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループの事業は医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。